

## ニッセイ インターネットアンケート ～セカンドライフについて～

日本生命保険相互会社(社長:清水博)は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューの一つとして、ホームページ(<https://www.nissay.co.jp>)内の「ご契約者さま専用サービス」にて、セカンドライフに関するアンケート調査を実施いたしました。

### 《アンケート概要》

- 実施期間：2021年8月1日(日)～8月14日(土)
- 実施方法：インターネットアンケート(「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー)
- 回答者数：7,381名(男性:3,805名、女性:3,429名、性別回答なし:147名)

<年代別回答者数>

[名]

年代								合計
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～		
男性	187	502	785	1,287	740	304	3,805	
女性	225	523	715	1,044	621	301	3,429	
合計	412	1,025	1,500	2,311	1,361	605	7,381	
占率	5.6%	13.9%	20.3%	31.3%	18.4%	8.2%	100.0%	

### 《アンケート結果のポイント》

#### ポイント①

質問 1～5

#### 【定年について】

- 全年代において半数以上が定年後も「仕事を続けたい」と回答した。
- 世帯年収が高い方ほど、「現在の仕事を続けたい」と回答した。
- 全年代の64.5%の方が「65歳以上も働きたい」と回答した。

#### ポイント②

質問 6～9

#### 【セカンドライフの予算について】

- 単身の場合は、ゆとりあるセカンドライフに必要な生活費の平均が24.7万円となり、現在の生活費と比較して8.6万円増額となった。
- 夫婦の場合は、ゆとりあるセカンドライフに必要な生活費の平均が29.3万円となり、現在の生活費と比較して4.5万円増額となった。
- 貯めておきたい金額の平均は、3,622万円となり、昨年度と比較して589万円増加となった。

#### ポイント③

質問 10～14

#### 【昨年度との接触機会の変化について】

- 全年代の60.1%が昨年度と比べて接触機会が「減った」と回答した。
- 全年代で接触機会が減った相手として「知人・友人」と回答した方の割合が最も高かった。
- 接触機会が増えたと回答した65歳以上の半数以上が要因として「新型コロナのワクチン接種により安心感が増したため」と回答した。
- 接触機会が減少した要因として、年齢が高い方ほど「新型コロナの感染対策が徹底されていないため」と回答した方の割合が高かった。

**質問1 定年を迎えた後のプランはどのようにお考えですか？**

(年代別回答者数：3,244名) (世帯年収別回答者数：3,207名)

- 年齢が高い方ほど、「現在の仕事を続けたい」と回答した。
- 若い年代ほど、「働かず違うことをしたい」と回答した方が高かった。
- 全年代の62.9%の方が定年後も「仕事を続けたい」と回答した。

**■定年後のプラン<年代別>**

(%)

	現在の仕事を続けたい	別の仕事をしたい	働かず違うことをしたい
～20代	27.8	27.0	45.2
30代	29.4	25.8	44.8
40代	35.8	24.0	40.2
50代	43.3	25.5	31.2
60代	55.2	16.3	28.5
70代～	72.2	0.0	27.8
全体	38.4	24.5	37.1

全年代の62.9%の方が定年後も仕事を続けたいと回答した

- 世帯年収が高い方ほど、「現在の仕事を続けたい」と回答した割合が高かった。
- 一方で、世帯年収が低い方ほど「働かず違うことをしたい」と回答した割合が高かった。

**■定年後のプラン<世帯年収別>**

(%)

	現在の仕事を続けたい	別の仕事をしたい	働かず違うことをしたい
300万円未満	32.0	28.3	39.7
300～500万円未満	33.3	26.9	39.8
500～700万円未満	39.9	23.4	36.7
700～1,000万円未満	39.5	23.2	37.3
1,000～1,500万円未満	45.5	23.4	31.1
1,500万円以上	40.0	21.8	38.2
全体	38.4	24.5	37.1

**質問2 【質問1で「現在の仕事を続けたい」「別の仕事をしたい」と回答した方への質問】  
何歳まで働きたいと思いますか？（回答者数：1,991名）**

○全年代の64.5%の方が65歳以上も働きたいと回答した。  
○65～69歳まで働きたいと回答した方の割合が最も多かった。

■何歳まで働きたいか

(%)

	全年代						
	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
60~64歳	30.7	44.1	30.3	24.6	34.4	21.7	0.0
65~69歳	36.7	22.1	38.8	36.6	38.8	36.1	0.0
70~74歳	19.3	18.4	14.4	24.4	16.0	30.1	45.5
75歳以上	8.5	8.1	9.1	9.8	6.7	9.6	54.5
その他	4.8	7.4	7.4	4.6	4.1	2.4	0.0

全年代の64.5%の方が65歳以上も働きたいと回答した

**質問3 【質問1で「現在の仕事を続けたい」「別の仕事をしたい」と回答した方への質問】  
働きたい理由は何ですか？（回答者数：1,190名）※複数回答可**

○働きたい理由として「収入を得るため」と回答した方の割合が最も高かった。  
○年収1,000万円以上の方は、「収入を得るため」以外の回答をした方の割合が高かった。

■働きたい理由

(%)

	全体	300万円 未満	300万~ 500万円未満	500万~ 700万円未満	700万~ 1,000万円未満	1,000万~ 1,500万円未満	1,500万円 以上
	収入を得るため	91.3	90.6	92.4	92.2	95.5	88.2
自己成長のため	15.4	10.6	14.7	12.0	16.6	18.6	24.2
仕事が楽しいため	15.3	9.4	16.0	11.7	12.1	18.6	40.9
多くの人との出会いがあるため	14.4	10.6	13.4	11.7	12.5	20.6	24.2
社会貢献のため	12.7	8.2	8.0	12.3	10.7	21.1	19.7
周囲の人も働いているため	6.6	5.9	5.5	5.8	9.3	6.4	4.5

働きたい理由として「収入を得るため」と回答した方の割合が最も高かった

年収1,000万円以上の方は、「収入を得るため」以外の回答をした方の割合が高かった

質問4 セカンドライフでやってみたいことは何ですか？（回答者数：6,599名）※複数回答可

○昨年度に引き続き、全体で「国内旅行」、「海外旅行」と回答した方の割合が高かった。

	（%）			<参考>昨年度			（%）		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性			
国内旅行	63.6	62.0	65.4	61.3	61.0	61.6			
海外旅行	35.0	31.5	39.1	32.9	30.5	35.8			
スポーツ	15.2	16.7	13.4	15.3	17.9	12.1			
資産運用	14.1	16.8	10.9	11.5	14.4	8.0			
地域貢献・ボランティア活動	12.5	12.1	13.0	11.2	11.5	10.8			
勉強・資格取得	9.9	9.1	11.0	8.8	8.1	9.6			
田舎へ移住	7.6	9.0	6.0	8.0	9.7	6.0			
仕事	6.5	6.5	6.5	5.8	6.7	4.7			
海外へ移住	3.9	3.8	4.0	4.6	4.8	4.4			
恋愛	2.0	2.3	1.6	1.8	2.1	1.5			
都会へ移住	1.3	1.2	1.5	1.3	1.2	1.5			
その他	15.9	16.1	15.7	14.4	13.5	15.6			

昨年度に引き続き「国内旅行」、「海外旅行」と回答した方の割合が高かった

質問5 セカンドライフで不安に感じていることは何ですか？（回答者数：6,770名）※複数回答可

○昨年度に引き続き、「自分の健康・病気」、「家族の健康・病気」など、健康面において不安を感じる方が多かった。

内容	（%）								<参考>昨年度
	全体	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	全年代	
1 自分の健康・病気	74.4	64.1	72.3	73.0	75.1	78.5	76.6	80.4	
2 生活費や医療費	47.7	48.8	52.3	53.8	51.0	38.6	26.8	56.5	
3 家族の健康・病気	45.7	35.1	44.4	45.3	45.5	49.4	49.1	45.8	
4 親の介護	28.6	30.3	35.9	35.8	31.9	17.6	3.0	32.4	
5 公的年金制度	25.8	31.9	28.3	28.9	26.6	22.5	11.7	32.7	
6 社会情勢・経済情勢の悪化	21.9	22.5	23.6	22.1	21.4	23.5	16.0	26.4	
7 配偶者の介護	12.0	8.8	11.7	12.8	12.4	11.7	11.3	13.2	
8 子・孫の面倒	6.4	2.9	9.3	7.7	6.1	5.4	4.1	8.7	
9 その他	4.8	7.0	4.9	4.1	4.2	5.1	7.6	3.3	

昨年度に引き続き「自分の健康・病気」、「家族の健康・病気」など、健康面において不安を感じる方が多かった

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部主任研究員 井上 智紀いのうえ ともきのコメント>



高齢層ほど仕事を、また、世帯年収が高いほど現在の仕事を、それぞれ継続する意向が高くなっていることは、老後に向けた資産形成などへの不安のほか、高所得層を中心に仕事そのものの楽しみや社会貢献など、生きがいの一環として仕事を続けていくことを希望しているためと思われます。

セカンドライフでやりたいことについては、全体では大きな変化はみられないものの、女性では「国内旅行」、「海外旅行」とともに増加するなか、僅かながら「国内旅行」で増加幅が大きくなっています。コロナ禍の出口が見えない中、移動の制約が少ない国内へと旅行需要のシフトが生じている可能性も考えられそうです。

一方、セカンドライフの不安では、「家族の健康・病気」に対する不安は横ばいの状態にある中、「自分の健康・病気」や「生活費・医療費」は減少しています。生活費に対する不安は業種や職種によっても大きく異なるものと思われるものの、コロナ禍で衛生意識・行動が高まった結果、健康状態が改善するなどの副次的な効果の実感のほか、長引く自粛生活や感染防止対策の徹底に対する疲れが、自身の健康に対する不安の減少につながったのではないのでしょうか。

**質問6 ゆとりあるセカンドライフに必要な生活費（1カ月あたり）はいくらくらいだと思いますか？（単身回答者数：2,149名）（夫婦回答者数：4,509名）**

- 単身の場合は、ゆとりあるセカンドライフに必要な生活費の平均が24.7万円となり、現在の生活費と比較して8.6万円増額となった。
- 夫婦の場合は、ゆとりあるセカンドライフに必要な生活費の平均が29.3万円となり、現在の生活費と比較して4.5万円増額となった。

■単身の場合

(%)

	全年代						
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
20万円未満	35.1	35.0	33.6	40.2	34.5	28.5	38.3
20～25万円未満	25.7	20.8	28.3	25.9	28.9	22.1	20.6
25～30万円未満	17.6	16.4	18.7	14.0	17.6	23.1	18.4
30～35万円未満	10.2	13.9	10.1	8.6	8.8	12.8	9.9
35～40万円未満	3.3	4.0	2.4	1.5	2.9	6.8	4.3
40～50万円未満	4.7	5.5	3.5	4.3	5.0	5.0	5.7
50万円以上	3.4	4.4	3.5	5.4	2.3	1.8	2.8

平均金額（万円）	24.7	25.7	24.5	24.3	24.2	25.6	24.2
現在の生活費	+8.6	+11.3	+8.9	+8.1	+7.4	+8.7	+8.3
平均金額（万円）	16.1	14.4	15.6	16.2	16.8	16.9	15.9

■夫婦の場合

(%)

	全年代						
	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
20万円未満	16.1	26.4	22.4	22.4	14.7	9.4	12.2
20~25万円未満	21.9	26.4	23.5	25.2	22.3	16.9	20.7
25~30万円未満	20.8	14.3	21.6	19.9	21.8	20.9	19.3
30~35万円未満	19.4	22.0	14.3	14.7	20.5	23.8	22.1
35~40万円未満	8.9	4.4	7.4	6.6	9.0	11.9	9.4
40~50万円未満	8.1	4.4	7.1	6.4	7.1	11.2	10.8
50万円以上	4.8	2.2	3.7	4.8	4.5	5.8	5.5

平均金額 (万円)	29.3	26.2	27.6	27.6	29.3	31.7	30.6
現在の生活費	+4.5	+6.9	+4.3	+2.9	+3.4	+6.7	+7.2
平均金額 (万円)	24.8	19.3	23.3	24.7	25.9	25.0	23.4

質問7 セカンドライフをスタートするまでに、貯めておきたい金額はいくらくらいですか？ (回答者数：6,817名)

質問8 質問7の金額のうち、現時点でどれくらい達成できていますか？ (回答者数：6,800名)

- 貯めておきたい金額は、全世代で「1,000~3,000万円未満」と回答した方が最も多かった。  
○貯めておきたい金額の平均は、3,622万円となり、昨年度と比較して589万円増加した。

■貯めておきたい金額

(%)

	全年代						
	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
500万円未満	8.3	11.5	7.6	8.7	6.6	8.3	14.3
500~1,000万円未満	9.9	12.0	10.3	11.6	9.8	7.1	10.5
1,000~3,000万円未満	35.5	40.0	39.8	37.9	34.3	33.1	28.5
3,000~5,000万円未満	24.3	21.9	24.5	21.4	25.1	26.2	26.0
5,000万円以上	21.9	14.7	17.9	20.4	24.3	25.3	20.7

平均金額 (万円)	3,622	2,932	3,344	3,471	3,818	3,944	3,373
【参考】	+589	+367	+422	+552	+751	+687	▲225
昨年度平均金額 (万円)	3,033	2,565	2,922	2,919	3,067	3,257	3,598

■ どれくらい達成できているか

(%)

	全年代						
		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
まだ準備していない	10.3	13.6	13.6	12.3	10.4	5.5	6.7
10%未満	21.1	52.1	33.1	23.6	15.9	11.0	15.9
10～30%未満	20.4	25.0	32.7	27.2	17.8	10.7	9.4
30～50%未満	14.9	5.3	12.1	17.8	17.5	13.2	11.5
50～80%未満	18.8	3.2	6.1	14.1	24.0	27.2	24.7
80～100%未満	6.5	0.8	1.0	2.2	7.2	13.8	12.8
100%	8.0	0.0	1.3	2.8	7.2	18.7	18.9

全年代の66.7%が目標額の5割を達成できていない

質問9 セカンドライフの資金を確保するためにどのようなことを行っていますか？

(回答者数：6,805名) ※複数回答可

- 全体で、「銀行預金・貯金」と回答した方の割合が68.6%と最も高く、次いで「個人年金保険」と回答した方の割合が39.9%だった。
- 年収が高い方ほど「銀行預金・貯金」等以外の能動的な資金確保を行っている。

■ 資金を確保するために行っていること

(%)

	全体						
		300万円未満	300万～500万円未満	500万～700万円未満	700万～1,000万円未満	1,000万～1,500万円未満	1,500万円以上
1.銀行預金・貯金	68.6	60.9	66.0	69.9	73.2	75.4	75.6
2.個人年金保険	39.9	28.2	38.4	42.0	46.1	47.8	45.8
3.株式・債券投資	23.6	16.2	18.3	22.3	29.0	35.6	40.2
4.退職金（退職一時金や企業年金など）	17.9	8.3	12.4	17.5	27.7	28.3	26.6
5.投資信託	17.1	11.3	13.1	17.4	20.5	25.8	30.3
6.NISA・つみたてNISA	16.8	8.5	13.7	15.7	22.2	28.3	25.1
7.iDeCo（個人型確定拠出年金）	10.3	3.6	6.7	10.4	15.9	18.5	17.0
8.財形貯蓄	9.8	3.5	5.8	10.2	16.9	16.4	12.2
9.国民年金基金	5.5	4.7	5.1	4.9	7.1	5.0	8.5
10.不動産投資	2.9	1.9	1.4	2.5	3.8	5.5	8.5
11.FX	1.3	0.7	1.1	1.3	1.9	1.6	1.8
12.仮想通貨	1.1	0.7	0.8	1.3	1.4	1.2	1.8
13その他	3.1	4.2	2.2	3.3	2.9	2.8	4.4
14.特に何もしていない	13.4	21.7	17.1	10.6	7.4	7.8	8.9

2～3、5～7、10～12と答えた方の割合 (上の表、黄色網掛けの項目)	全体						
		300万円未満	300万～500万円未満	500万～700万円未満	700万～1,000万円未満	1,000万～1,500万円未満	1,500万円以上
	59.4	43.2	55.3	61.8	68.7	71.7	73.1

年収が高い方ほど「銀行預金・貯金」等以外の能動的な資金確保を行っている

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部主任研究員 井上 智紀いのうえ ともきのコメント>

ゆとりあるセカンドライフに必要な生活費は現在の生活費に比べ大幅に高い金額となったことは、コロナ禍で外食を控えるなど自粛生活が続く中、日常の生活費が低く抑えられていることが大きいと考えられます。

一方で、貯めておきたい金額が昨年に比べ大きく増えたことは、長寿化が進んでいることを背景に高まる私的な資金準備ニーズに対し、自粛生活の中、消費が抑制されている分、貯蓄の積み増しが進んでいることのほか、若年層を中心につみたてNISAの口座開設が増えるなど、投資を始める方が増えたことで、将来に向けた運用成果への期待感の高まりを表しているのではないのでしょうか。

セカンドライフに向けた資金準備手段について世帯年収によらず株式・債券投資や投資信託、NISA・つみたてNISAの方がiDeCo（個人型確定拠出年金）よりも高くなっていることは、企業年金制度との兼ね合いからiDeCo（個人型確定拠出年金）には加入できない場合があるほか、課税繰延などの税制上のメリットに対する理解が十分ではないことや、所定の年齢まで引き出しできず他の資金需要に流用できない流動性の低さが敬遠されている可能性もありそうです。

**質問 10 昨年度と比べて、人との対面での接触\*頻度に変化はありましたか？**

\*同居家族以外と1メートル以内で、マスク等無し状態で15分以上の会話等をする事

(年代別回答者数：7,223名)

○全年代の60.1%が昨年度と比べて「減った」「どちらかという減った」と回答した。  
○20代未満の方で「増えた」「どちらかという増えた」と回答した方の割合が他の世代と比べて高かった。

■接触頻度の変化について

	全年代 (%)							
	全年代	~20代	30代	40代	50代	60~64歳	65~69歳	70代~
増えた	2.0	4.6	2.7	1.9	1.4	1.4	2.3	2.6
どちらかという増えた	1.9	3.8	2.7	2.5	1.6	1.2	0.6	1.5
変わらない	35.9	38.5	35.6	35.6	36.2	35.6	34.4	35.9
どちらかという減った	20.1	19.5	21.3	18.8	20.6	18.4	23.3	19.2
減った	40.0	33.7	37.8	41.1	40.1	43.4	39.3	40.8

全年代で「減った」、「どちらかという減った」と回答した方の割合は60.1%だった

20代未満の方で「増えた」、「どちらかという増えた」と回答した方の割合が他の年代と比べて高かった



質問 11 <質問 10 で「増えた」「どちらかという増えた」と回答した方への質問>  
 接触機会が増えた相手は誰ですか？（年代別回答者数：281 名）※複数回答可

質問 12 <質問 10 で「増えた」「どちらかという増えた」と回答した方への質問>  
 接触機会が増加した要因をお答えください（回答者数：278 名）※複数回答可

- 接触機会が増えた相手として、全年代で「仕事上の同僚、取引先等」と回答した方の割合が最も高かった。
- 接触機会が増えた相手として、60 代以上で「別居の家族、親族」と回答した方の割合が全年代平均より高かった。
- 接触機会が増加した要因として、65 歳以上の半数以上が「新型コロナのワクチン接種により安心感が増したため」と回答した。
- 接触機会が増加した要因として、全年代で「会社への出勤回数が増加したため」、「業務上の理由によるもの」と回答した方の割合が 42.1%となった。

■ 接触機会が増えた相手

(%)

	全年代	~20代	30代	40代	50代	60~64歳	65~69歳	70代~
	仕事上の同僚、取引先等	45.2	45.2	51.9	47.8	52.2	27.3	33.3
別居の家族、親族	42.0	41.9	42.6	46.3	31.9	45.5	46.7	52.2
知人・友人	29.2	38.7	29.6	22.4	37.7	18.2	26.7	21.7
対面イベント等で初めて知り合った人	5.0	0.0	3.7	7.5	4.3	4.5	6.7	8.7
学校の先生、在校生等	3.2	6.5	3.7	4.5	2.9	0.0	0.0	0.0
その他	8.9	16.1	5.6	7.5	8.7	13.6	6.7	8.7

全年代で「仕事上の同僚、取引先等」と回答した方の割合が最も高かった

60 代以上で「別居の家族、親族」と回答した方の割合が全年代平均より高かった

■ 増加した要因

(%)

	全年代	~20代	30代	40代	50代	60~64歳	65~69歳	70代~
	新型コロナのワクチン接種により安心感が増したため	35.3	34.4	35.8	30.3	22.9	33.3	57.1
業務上の理由によるもの	22.3	28.1	18.9	16.7	34.3	23.8	14.3	4.5
会社への出勤回数が増加したため	19.8	21.9	22.6	24.2	18.6	14.3	7.1	13.6
新型コロナの感染対策が徹底され安全だと感じたため	12.9	18.8	7.5	15.2	15.7	4.8	21.4	4.5
対面でのコミュニケーションの方が取りやすいため	10.8	12.5	9.4	15.2	11.4	4.8	14.3	0.0
自粛に疲れてしまったため	9.0	18.8	7.5	7.6	12.9	0.0	7.1	0.0
対面イベント等の開催が増えたため	6.5	9.4	5.7	13.6	1.4	0.0	7.1	4.5
新型コロナの重症化リスクが低い同士のため	4.3	6.3	3.8	1.5	7.1	4.8	7.1	0.0
部活動、クラブ等が再開されたため	3.6	6.3	3.8	3.0	2.9	4.8	0.0	4.5
学校への登校回数が増えたため	2.5	3.1	3.8	4.5	0.0	4.8	0.0	0.0
その他	14.4	18.8	18.9	9.1	14.3	19.0	14.3	9.1

全年代で「会社への出勤回数が増加したため」、「業務上の理由によるもの」と回答した方の割合が 42.1%となった

65 歳以上の半数以上が「新型コロナのワクチン接種により安心感が増したため」と回答した

質問 13 <質問 10で「どちらかというが減った」「減った」と回答した方への質問>  
 接触機会が減った相手は誰ですか？（年代別回答者数：4,152名）※複数回答可

質問 14 <質問 10で「どちらかというが減った」「減った」と回答した方への質問>  
 接触機会が減少した原因をお答えください。（回答者数：4,234名）※複数回答可

- 接触機会が減った相手として、全年代で「知人・友人」と回答した方の割合が最も高かった。
- 接触機会が減少した要因として、全年代で「新型コロナのワクチン接種が進んでおらず不安なため」と回答した方の割合が最も高かった。
- 接触機会が減少した要因として、年齢が高い方ほど「新型コロナの感染対策が徹底されていないため」と回答した方の割合が高かった。

■ 接触機会が減った相手

(%)

	全年代	~20代	30代	40代	50代	60~64歳	65~69歳	70代~
	知人・友人	73.4	77.6	77.5	74.5	70.1	73.0	76.0
別居の家族、親族	49.9	38.8	47.6	54.2	48.4	49.3	48.4	57.2
仕事上の同僚、取引先等	43.6	35.8	51.2	47.2	52.9	40.0	26.9	10.3
対面イベント等で初めて知り合った人	12.5	13.4	16.8	14.2	11.6	10.7	9.0	9.4
学校の先生、在校生等	4.3	9.0	5.7	8.4	2.9	2.2	1.3	0.6
その他	7.3	7.0	3.7	6.2	6.6	10.5	9.3	12.3

全年代で「知人・友人」と回答した方の割合が最も高かった

■ 減少した要因

(%)

	全年代	~20代	30代	40代	50代	60~64歳	65~69歳	70代~
	新型コロナのワクチン接種が進んでおらず不安なため	57.3	49.3	54.0	57.5	58.3	60.8	56.7
新型コロナの感染対策が徹底されていないため	37.6	33.2	36.0	34.4	35.1	39.2	46.8	50.9
自粛生活に慣れてしまったため	23.4	26.3	25.4	25.7	21.8	20.3	22.4	24.4
会社への出勤回数が減少したため	14.8	12.7	19.7	15.4	18.8	12.5	7.1	1.1
新型コロナの重症化リスクが高い人が含まれているため	14.5	10.2	12.8	13.9	14.2	15.3	17.3	19.6
業務上の理由によるもの	13.0	13.2	15.4	16.6	15.5	10.2	4.2	1.7
対面授業、イベント等が中止されているため	12.2	12.7	12.3	15.3	12.3	11.0	11.2	6.5
オンライン上でのコミュニケーションに慣れてきたため	5.4	5.9	7.1	7.0	5.6	3.5	3.5	1.4
部活動、クラブ等が中止となっているため	2.1	4.4	1.6	3.3	1.2	1.9	2.2	2.6
学校への登校回数が減ったため	1.5	4.4	1.4	3.7	0.9	0.6	0.0	0.0
その他	8.8	7.8	8.0	8.8	8.7	10.8	9.3	7.1

全年代で「新型コロナのワクチン接種が進んでおらず不安なため」と回答した方の割合が最も高かった

年齢が高くなるにつれて「新型コロナの感染対策が徹底されていないため」と回答した方の割合が高かった

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部主任研究員 井上<sup>いのうえ</sup>智紀<sup>ともき</sup>のコメント>

昨年度に比べた対面での接触頻度は世代を問わず6割が減少している中、僅かながら20代以下では増えたとする方が30代以上に比べ高くなっていました。接触頻度が増えた理由は現役世代ではいずれも仕事上の必要が最大の要因であり、在宅勤務に向けた環境の整備が進んでいないことが大きいと思われるものの、20代以下の層では自粛疲れも他の年代に比べ高くなっています。このことは、単身者の多い若年層において、一人暮らしで会話の相手がいないなど、自粛生活によるストレスへの対処として感染防止に留意しながら対話を求めて外出するようになっているものと考えられそうです。

一方で、高齢層のなかで接触頻度が増えた理由としてワクチン接種による安心感があがっていることは、今後の接種の拡大に伴い、現役世代を含めて接触頻度を増やす方が増える可能性があることを意味しています。今後の人流の拡大が予想される中、感染防止に向けて気の緩みのないよう心がけることが肝要といえるでしょう。

以 上